

次の文を読んで 1～10 の空欄にあてはまる語を下の語群より選び、その記号をマークせよ。

鎌倉時代中期になると地頭は荘園の侵略を積極的にすすめていったが、それは多くは荘園の農民達に対する支配や収奪の強化を伴うものであった。これにたいし農民達は抵抗する。[1] 年 5 月、のちに高野山領となる[2]国阿弋河荘の農民達は地頭湯浅氏による強制的な夫役徴発などに対し[3]に訴えているが、「ミミヲキリ、ハナヲソキリ、カミヲキリテ」の一文のある有名な言上状は、同年 10 月にさらに激化する湯浅氏の非法を農民達が 13 ケ条にまとめたものだった。

こうした農民達の力強い姿勢は、南北朝の動乱期をへて惣村形式への原動力となっていった。惣村では地代としての[4]を収取する名主や、新たに成長してきた小農民により村政が行なわれた。それは具体的には年貢の地下請や入会地および用水の管理であった。また、なかには惣掟を定めたり、領主に代って警察・裁判権を行使する「自検断の村」もあらわれた。例としては琵琶湖の北に位置する[5]荘が名高い。

そして室町時代には惣村を基礎として土一揆が多く勃発した。[6]年の正長の土一揆は、その大規模な最初の例であり、興福寺大乘院の僧侶は「凡そ[7]の基、これに過ぐべからず。日本開白以来、土民蜂起是れ初なり」と、支配者としての怒りと驚きを記録にとどめている。またこの土一揆は、翌年[8]国にも及んだ。そして以後毎年のように京都、奈良には土一揆がおしよせる有様となっていった。これらの土一揆のうちには室町幕府に[9]を要求するものもあり、幕府は 1441 年の土一揆に際し[9]を発令している。このほか 1488 年には加賀国で一向一揆がおこった。京都相国寺のうちにあった蔭涼軒の僧は「一揆衆二十万人、[10]城を取回く、(略)皆生害す」と記録している。

また、その 3 年前に南山城地方では国人一揆が結成されているが、大乘院の僧侶は「一揆は下剋上の結果であり、やむをえないことである」と感嘆している。正長の土一揆から約 60 年の時間的経過は、支配者の一揆に対する感覚を確実に麻痺させてしまったといえる。とくに農民達が結合を強めていって一揆した時代、それが中世であった。

〔語群〕

ア.斯波 イ.破滅 ウ.塩津 エ.公事 オ.1428 カ.幕府問注所 キ.長浜 ク.加地子
ケ.給恩 コ.摂津 サ.丹後 シ.1426 ス.赤松 セ.亡国 ソ.六波羅探題 タ.和泉

チ.徳政 ツ.大和 テ.富樫 ト.安堵 ナ.滅亡 ニ.公方年貢 ヌ.播磨 ネ.紀伊
ノ.菅浦 ハ.1275 ヒ.朝廷 フ.1279 ヘ.1427 ホ.1277

解答

1 ハ 2 ネ 3 ソ 4 ク 5 ノ 6 オ 7 セ 8 ヌ 9 チ 10 テ